

# 臨床検査医学科

## ● スタッフ（2021年10月1日現在）

診療科長 木内 英  
 医局長 四本 美保子  
 病棟医長 村松 崇  
 外来医長 萩原 剛

医師数 常勤 15名  
 非常勤 3名

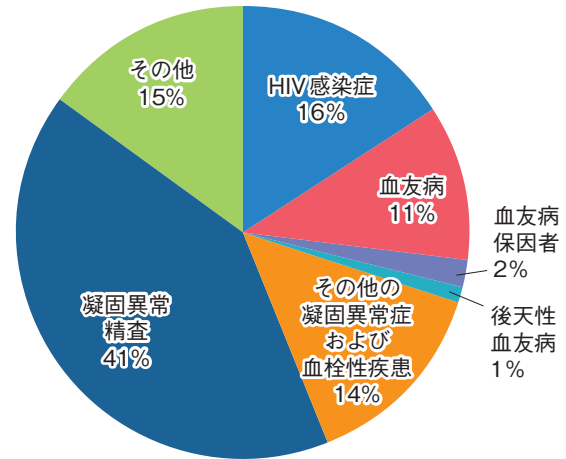
## ● 診療科の特徴

血栓止血異常、HIV感染症、輸血診療を専門とする。血友病では関節内出血、筋肉内出血、脳出血などの出血予防と止血管理、または手術にともなう止血管理を実施している。血友病性関節症は整形外科やリハビリテーション科とともに診療している。血友病保因者の遺伝相談と研究レベルの遺伝子解析検査も行っている。血友病Aに対するⅧ因子代替抗体製剤の皮下注射の導入を行っており、新規血友病治療製剤の治験を行っている。血友病以外の先天性凝固異常、後天性凝固異常も対象疾患である。HIV感染症は診断された患者を対象としている。2021年度の新規患者は60人であり、現在約1,600人が通院している。HIV/AIDS関連性疾患としてはニューモシステイス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、カポジ肉腫、非ホジキンリンパ腫など。治療の長期化、高齢化とともに悪性腫瘍や糖尿病・慢性腎臓病などの合併症の症例も増えている。輸血診療としては主に各科の術前自己血貯血を行っており、年間のべ544件対応している。

## ● 診療体制と実績

2021年度外来初診患者は673人。自己血貯血初診293人を除いた初診患者の内訳はHIV感染症61人、血友病40人および血友病保因者7人、後天性血友病5人、その他の凝固異常症および血栓性疾患が53人、凝固検査異常精査依頼が157人、その他が57人であった。2021年度主科入院件数は108件。内訳はHIV感染症が54人（COVID-19合併13人、血友病合併3人）、血友病を代表とする先天性凝固異常症が21人、後天性血友病を代表とする後天性凝固異常症が12人、その他が21人であった。

2021年度外来初診内訳  
 （自己血貯血を除く）



2021年度入院診療内訳

